

2024年6月13日

各位

会社名 株式会社シャノン
代表者名 代表取締役社長 中村 健一郎
(証券コード:3976 東証グロース)
問合せ先 執行役員 CFO兼経営管理本部長 友清学
(電話番号:03-6743-1551)

2024年10月期 第2四半期決算について想定されるご質問に対する回答

本資料は、2024年6月13日に公表した2024年10月期 第2四半期決算について、想定されるご質問に対する回答を皆様にご参考として開示するものです。

Q1	2024年10月期 第2四半期の事業進捗を踏まえて、業績予想の修正は行いますか。
A1	<p>上半期の業績(実績)は、公表していた「第2四半期(累計)の連結業績予想」に対して、売上高はややビハインドとなりましたが、収益性の高いサブスクリプション売上が上振れたこと、費用は計画に対して削減できたことにより各段階損益は予想よりも上振れて着地し、通期予算達成に向けて順調に推移はしております。</p> <p>イベントクラウド事業や、サブスクリプション事業のプロフェッショナル売上については、現時点で通期売上予算に対してはまだ未受注の枠がある状態ではあります。また、案件によっては納品が翌期にずれ込むリスクもあることから、引き続き気を引き締めて着地を見定めていきたいと考えており、現時点で通期業績予想の修正は予定しておりません。</p> <p>本日開示の「2024年10月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ」も併せてご参照頂ければ幸いです。</p> <p>https://www.shanon.co.jp/ir/irnews/</p>

Q2	生成AI関連サービスの進捗を教えてください。
A2	<p>「シャノンコンテンツアシスタント」は、2月の製品リリース後、ユーザー様の声を聴きながら、すでに複数回のプロンプトテンプレートのアップデートを行っております。これらのアップデートにより、ユーザー様となるマーケティング担当者にとっても、より使いやすく、成果につながるコンテンツ作成ができるようになりました。</p> <p>今後も更にサービスの価値を高めるためのアップデートをしていく予定でございます。</p>

Q3	生成AI関連サービスである「シャノンコンテンツアシスタント」は、何件受注がありましたか。
A3	具体的な受注件数については現時点では非開示としておりますが、ユーザー様の声を踏

	まえたプロンプトテンプレートのアップデートや営業活動により、トライアル利用数、有償アカウント数も少しずつ増加してきております。
--	---

Q4	生成 AI 関連サービスである「マーケティング運用代行パッケージ」は、何件受注がありましたか？
A4	具体的な受注件数については現時点では非開示としておりますが、SHANON MARKETING PLATFORM の新規顧客がシステム利用とセットで申し込みされるケースを中心に少しずつ受注や商談は増加してきています。今後は既存のお客様に対しての提案も積極的に行っていく予定でございます。

Q5	3月27日に「SFA」の機能アップデートに関するお知らせが出ていますが、SFA はどの程度売れていますか。
A5	具体的な受注件数については現時点では非開示としておりますが、新規で SHANON MARKETING PLATFORM をご契約いただく中堅企業のお客様を中心に、SHANON MARKETING PLATFORM と SFA をセットでご契約いただくケースが増加しており顧客単価向上にも繋がってきております。

Q6	4月15日に IT 導入補助金に関するお知らせが出ていますが、利用実績はありますか。
A6	具体的な受注件数は開示しておりませんが、毎期ご利用実績がございます。

Q7	地方自治体での利用実績が多くプレスされていますが、なぜこのタイミングでプレスが多く出ているのでしょうか。
A7	地方自治体案件については、契約の関係上自治体の年度末（3月末）に納品完了する案件が多いことから、納品が完了し許諾を頂けた自治体様のご利用実績を公表しております。2024年10月期の売上は主に前期の期間において受注した案件であり、現在は来期売上となる商談活動に注力しております。

Q8	日本社会人アメリカンフットボールXリーグとの提携の趣旨を教えてください。
A8	Xリーグ及びXリーグに参加するチームのスポンサー獲得支援を皮切りに、スポンサー獲得に課題を感じている他のスポーツリーグ、クラブチームに対してもマーケティング業務の支援を展開していく予定です。

Q9	第1四半期末に引き続き、第2四半期末時点でも債務超過になっていると思いますが、これに対する具体的な対応は今後何かされるのでしょうか？
A9	ご認識のとおり、当第2四半期末においても債務超過となっておりますが、この1年で大型の資金調達を行っていることもあり運転資金等の状況には懸念はございません。また、当連結会計年度については通期黒字を見込んでおり、期末までには債務超過も解消

<p>されると考えております。</p> <p>しかしながら、自然治癒を待っている間の事業への影響も少なからず懸念はされるため、事業への影響を考慮しながら、第三者割当増資先であるウィズパートナーズとも単に資本増強するのではなく、当社の本質的な企業価値向上にも資する戦略的な資本業務提携等も絡めて早期に債務超過を解消させることなどについても協議しているところでございます。</p>
--

各種 IR ライブラリー資料はこちら

<https://www.shanon.co.jp/ir/library/index.html>

- 本発表において提供される情報は、いわゆる「見通し情報 (forward-looking- statements)」を含みます。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社または当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。
- これらリスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動等、一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- 投資判断を行う際は、必ず弊社が開示している資料をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断において行っていただきますよう、お願い致します。